

1 音読

年		組		名前	
---	--	---	--	----	--

声に出して読んでみましょう。

つれづれぐき
徒然草 (序段)

よしだけんこう
吉田兼好

つれづれなるままに、
日暮し、硯に向かひて、
心にうつりゆくよしなしごとを、
そこはかたなく書きつくれば、
あやしうこそものぐるほしけれ。

【解説】

たったひとりでもすることがないま
ま、一日中硯に向かつて、心に次々とう
かんで消えていく、とりとめのないこ
とをどうしようということもなく書きつ
けていると、われながら実に奇妙で変な
感じがしてくる。

「徒然草」は、兼好法師によって書かれ
た随筆で、鎌倉時代末期に完成したとさ
れています。序段と二百四十三段からな
り、人生や自然などについて、独自の考
えや感想を述べています。